

OCHIS SASスクリーニング検査の重要性

健康起因事故を減らす

状があると回答した人の中でのD判定者はわずか2・3%であるため、自覚症状がない人ほどSASのリスクが高いことになる。

トラックドライバードライバーにとって睡眠の質は、業務の質を左右する重要なカギを握る。何よりも社員の命を守り、健康起因事故を減らすためには、睡眠時無呼吸症候群(SAS)のスクリーニング検査がやはり欠かせない。

2020年度SAS検査の実績調査概要を発表した。今回、発表した資料によると、トラック関係者のSAS検査実施者数は8262人(男性:7940人、女性:322人)で、実施者の平均年齢は

46・5歳。パルスオキシメータの結果によると、実施者のうち2861人(34・7%)が精密検査の対象(D・D+判定)になった。またD判定者のうち、重症とされるD+判定者は588人で全体の6・8%だった。

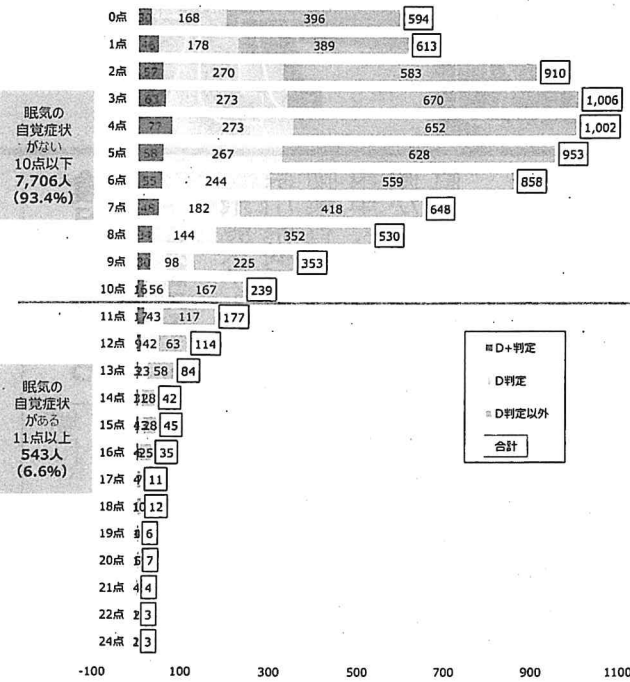
バス・タクシー・トラックで精密検査を受けた757人のうち、687人(90・8%)がSASの確定診断を受けており、CPAPでの治療が必要と診断されたのは、757人のうち374人(49・4%)。疑SAS者757人の重症度は、人の重症度は、重症が最も多く

34・1%、中等症が27・7%だった。トラック関係者の結果に目を向けると、体格指数(BMI)が25以上の肥満者の割合は、8252人(全対象者から年代不明者10人を除く)中、2929人(35・5%)だった。40代以上の肥満者では、各年代のD・D+判定者は50%を上回り、肥満および加齢に伴い有所見率は上昇している。

I 25未満の12・6倍と高い。さらに、昼間の眠りに関する自覚症状からSASの可能性を調べる「ESSテスト」と、D判定者の割合を示すデータでは、自覚症状の有無にかかわらずどちらも約35%で有所見がみられた。眠気の自覚症状の有無と判定結果にはほとんど相関関係がないことが明らかにしている。

8-2. ESSテストの回答点数とSAS判定の割合

対象者: 8,249人
(全対象者8,262名中ESS点数不明者13人除く)



ESSテストの回答点数とSAS判定の割合

今回の調査でも、ESSテストの回答点数とSAS判定の割合のデータを発表。11点以上が「自己認識によるSASの有所見」と見なされるが、10点以下であっても32・3%の有所見率という結果が得られた。自覚症状がある人と回答した人の中でのD判定者はわずか2・3%であるため、自覚症状がない人ほどSASのリスクが高いことになる。

(木村麻理奈)